

株主のみなさまへ

第103期 事業報告書

平成16年4月1日から

平成17年3月31日まで



静甲株式会社

目 次

● ごあいさつ	1
● 営業の概況	2
● 業績の推移（個別）	6
● 業績の推移（連結）	7
● 個別財務諸表要旨	8
● 連結財務諸表要旨	9
● トピックス	10
● 会社の概況	11
● 株式事務のご案内	13

ごあいさつ

株主の皆さまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社第103期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国の経済は、企業の設備投資や輸出の伸長などに支えられ景気は回復傾向にありましたが、原油価格の高騰や鋼材不足などの不安材料も多く、先行きに対する懸念は払拭できないまま推移しました。

このような経済環境の中で、当社では引き続き顧客満足の向上を重要な経営目標に掲げ、製品及びサービスの品質向上と販売の強化に努めてまいりました。

この結果、生産部門の包装機械では、期初において厳しかった受注状況も、期後半には回復し、冷間鍛造製品も順調に売上を伸ばすことができました。商事部門も前期に引き続き電機機器、制御機器の販売が好調に推移しましたので、売上高は全体で91億6千4百万円（前期比2.4%増）となりました。一方、経常利益は鋼材不足などにより製造原価が増加したため、当初の業績予想を上回ったものの3億2千6百万円（前期比12.8%減）となりました。当期純利益は2億1千2百万円（前期比8.7%増）となりました。

当期の利益配当金につきましては、1株につき8円として、先に実施いたしました中間配当金と合計した年間の支払配当金は1株につき16円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

取締役社長 鈴木 恵子

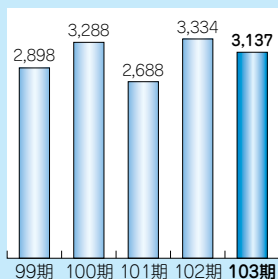
営業の概況

生産部門

包装機械

多品種少量生産の需要動向から小型包装機械設備の売上は順調に推移しましたが、大型包装機械設備に対する引き合いは伸び悩みました。そのため、営業と設計のシナジー効果を求め組織の枠を越えた営業活動を行うとともに、医薬品業界向けのケーサーやカートナーなどの受注にも注力し、期後半には受注量も回復しましたが、売上高は31億3千7百万円（前期比5.9%減）となりました。

包装機械売上高



単位：百万円

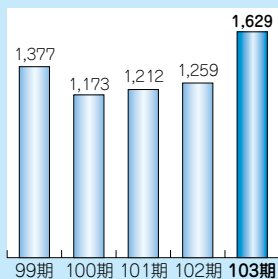


食品会社向け重量式充填機とキャッパー

冷間鍛造

納入先の欧米向け輸出が好調であった電動工具用部品や自動車用部品に加え、国内景気の回復に伴い産業機械用部品の受注も好調に推移しました。また、原材料となる鋼材の確保に努め、生産設備の更新なども行った結果、売上高は前期を大きく上回る16億2千9百万円（前期比29.4%増）となりました。

冷間鍛造製品売上高



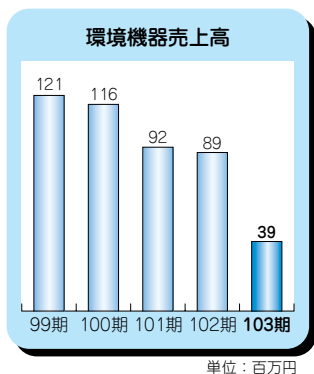
単位：百万円



新規受注の電動工具用部品

環境機器

あき缶回収機「CANBOY VI」及び「紙カップ回収機」を中心に販売に努めましたが、売上高は3千9百万円（前期比55.6%減）にとどまりました。



あき缶回収機
CANBOY VI

この結果、生産部門全体では、売上高は48億7百万円（前期比2.6%増）となりました。

〔生産部門の対処すべき課題〕

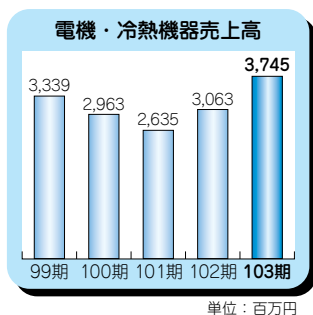
包装機械では新たに技術顧問を迎えましたので、設計技術と品質の向上以外にも、継続的な課題として生産効率の追求や外注費の削減を中心としたコストダウン等に取り組んでまいります。また、三島工場の一部建て替えを行い、予想される地震等による災害への備えを強化するとともに労働環境の改善も行います。販売面におきましては、インターパック2005（本年4月にドイツで開催）への出展を契機にヨーロッパを中心とした海外での展開も視野に入れた活動を行います。

冷間鍛造製品では安定した生産を維持するため、引き続き鋼材の仕入ルートの確保を当面の重要課題と認識し、これに対処してまいります。一方、コスト面につきましては、経費削減とともに鋼材などの原材料費の値上がりに伴う製品価格の一部見直しも検討します。また、環境マネジメントシステム（ISO 14001）につきましては、平成18年4月の認証取得を目指して準備を進めております。今後は生産効率の向上にとどまらず環境と労働安全にも配慮した設備投資を行います。

商 事 部 門

電機・冷熱機器

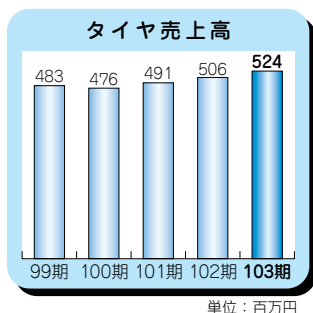
電機機器は前期から続く半導体、液晶業界を中心とした活発な設備投資に支えられ好調に推移しました。また、ビル設備機器でも放送業界におけるデジタル放送対応のための受変電設備及び無停電電源装置等の受注がありましたので、売上高は37億4千5百万円（前期比22.3%増）となりました。



三菱電機(株)製 ACサーボ
MR-J2-Super シリーズ

タ イ ヤ

期前半は原油価格の高騰に伴う販売価格の値上げや法人を中心とした顧客の経費削減などの影響から需要が伸びず売上が低迷しましたが、期後半には冬用タイヤを中心に順調に業績を伸ばすことができたため、売上高は、ほぼ前期並みの5億2千4百万円（前期比3.5%増）となりました。



ダンロップ・デジタイヤ
GRASPIC DS-2

この結果、商事部門全体の売上高は、環境機器製品（他社製品）を含めて42億8千6百万円（前期比1.7%増）となりました。なお、これまで「産業用車両」に含めておりました東海旅客鉄道(株)関連事業及びフォークリフトの販売、修理事業は平成16年3月15日をもちまして廃止いたしましたので、「産業用車両」に含めておりましたタイヤ販売を当期から区分表示しております。

〔商事部門の対処すべき課題〕

商事部門では、お客様から見て分かりやすい組織にするため、営業とサービスを一本化し総合的な営業力を強化するとともに間接経費などの削減にも努め効率化を推進してまいります。また、電機・冷熱機器では新しい販売管理及び発注システムを導入しますので、その効果を最大に発揮させ社内事務コストの削減に努めます。

なお、浜松営業所は本年5月に移転いたしました。



本社・清水工場



本社別館(商事部門)

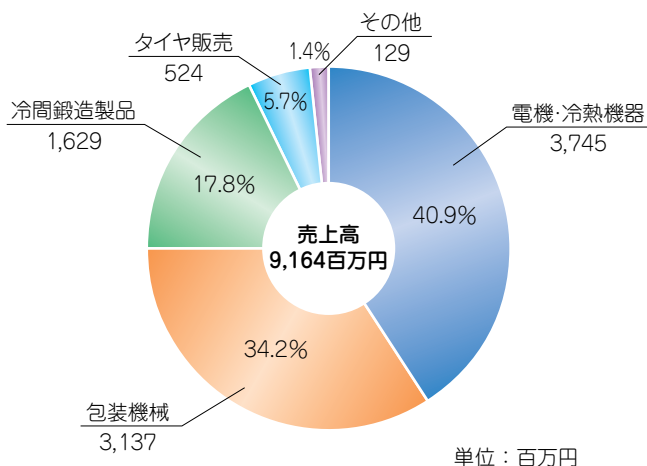


三島工場



富士川工場

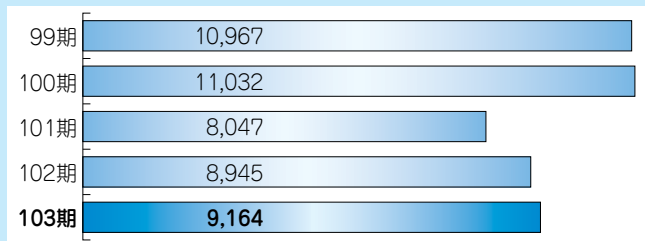
当期のセグメント別売上高比率



業績の推移（個別）

売上高

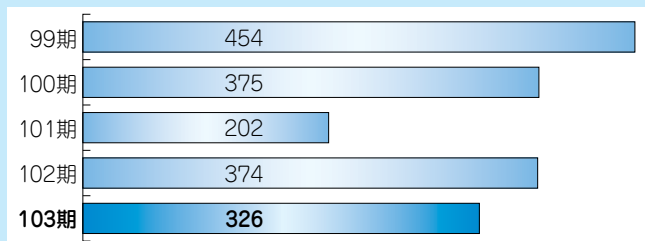
単位：百万円



101期の減少は、主として100期末をもって水道事業を廃止したことによるものです。

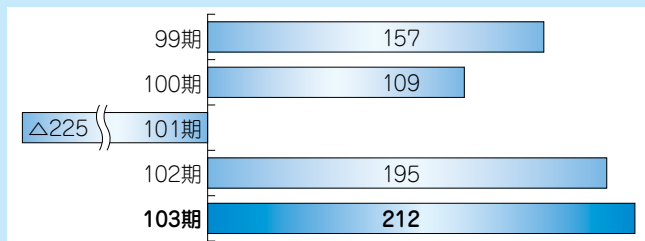
経常利益

単位：百万円



当期純利益

単位：百万円

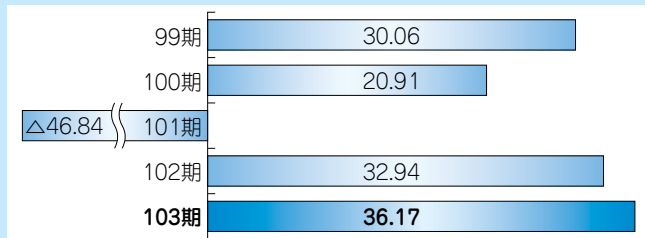


①99期と100期につきましては、退職給付会計基準変更時差異償却に伴う退職給付引当金繰入額4億2百万円を特別損失に計上しております。

②101期につきましては、鈴木厚生年金基金脱退に伴う一括拠出金4億8千万円を特別損失に計上しております。

1株当たり当期純利益

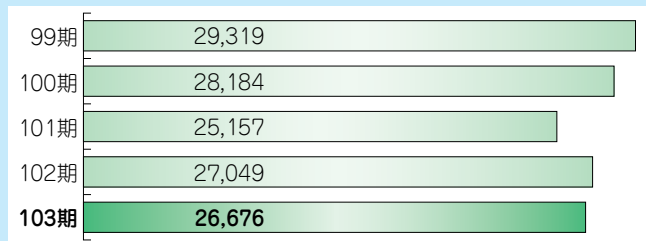
単位：円



業績の推移(連結)

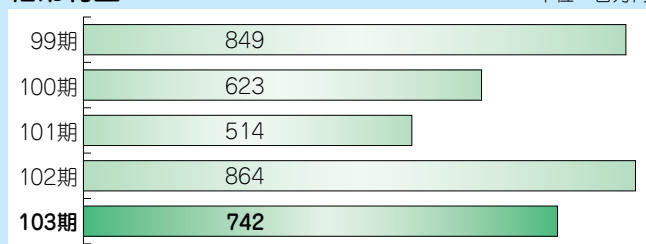
売上高

単位：百万円



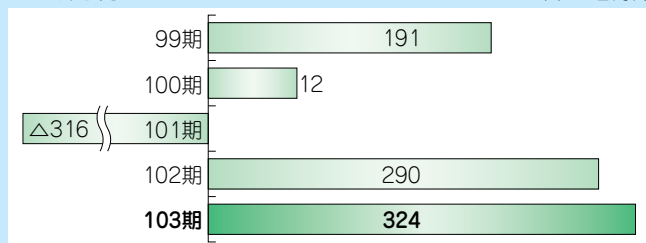
経常利益

単位：百万円



当期純利益

単位：百万円

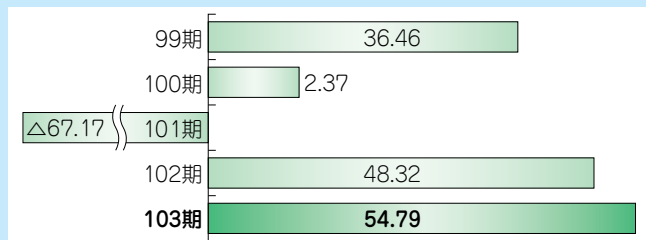


①99期と100期につきましては、退職給付会計基準変更時差異償却に伴う退職給付引当金繰入額4億9千7百万円を計上しております。

②101期につきましては、鈴木厚生年金基金脱退に伴う一括拠出金9億3千9百万円を特別損失に計上しております。

1株当たり当期純利益

単位：円



個別財務諸表要旨

■ 貸借対照表 (平成17年3月31日現在)

単位：千円

資産の部		負債及び資本の部	
流動資産	5,950,223	流動負債	1,362,635
現金及び預金	1,673,664	支払手形及び買掛金	771,286
受取手形及び売掛金	2,995,094	その他	591,349
たな卸資産	857,389	固定負債	1,192,600
その他	437,196	〈負債合計〉	〈2,555,236〉
貸倒引当金	△ 13,121	資本金	1,337,000
固定資産	5,981,174	資本剰余金	1,242,814
(有形固定資産) (3,151,585)		利益剰余金	6,247,833
建物及び構築物	1,082,597	株式等評価差額金	548,514
土地	1,657,932	〈資本合計〉	〈9,376,161〉
その他	411,055		
(無形固定資産) (25,057)			
(投資その他の資産) (2,804,531)			
投資有価証券	1,506,211		
その他	1,313,574		
貸倒引当金	△ 15,253		
資産合計	11,931,398	負債及び資本合計	11,931,398

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 損益計算書 (平成16年4月1日～平成17年3月31日)

単位：千円

売上高	9,164,783
売上原価	7,642,047
販売費及び一般管理費	1,317,092
営業利益	205,643
営業外収益	135,236
営業外費用	13,895
経常利益	326,985
特別利益	1,762
特別損失	20,671
税引前当期純利益	308,076
法人税、住民税及び事業税	131,191
法人税等調整額	△ 35,553
当期純利益	212,438
前期繰越利益	197,187
中間配当額	42,000
当期末処分利益	367,625

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 利益処分

単位：千円

当期末処分利益	367,625
任意積立金取崩額	19,461
特別償却準備金取崩額	1,065
買換資産圧縮記帳積立金取崩額	18,396
合計	387,087
これを次のとおり処分します	
利益処分量	64,500
利益配当金 (1株につき8円)	42,000
取締役賞与金	22,500
次期繰越利益	322,587

(注) 平成16年11月30日に42,000千円 (1株につき8円) の中間配当を実施いたしました。

連結財務諸表要旨

■ 連結貸借対照表 (平成17年3月31日現在)

単位：千円

資産の部		負債、少数株主持分及び資本の部	
流動資産	9,545,683	流動負債	4,358,527
現金及び預金	2,454,725	支払手形及び買掛金	2,700,796
受取手形及び売掛金	4,462,820	その他	1,657,731
たな卸資産	2,112,289	固定負債	1,856,905
その他	530,592	〈負債合計〉	〈 6,215,433〉
貸倒引当金	△ 14,745		
固定資産	9,745,748	〈少数株主持分〉	〈 2,233,137〉
(有形固定資産)	(7,466,593)	資本金	1,337,000
建物及び構築物	2,696,345	資本剰余金	1,242,814
土地	4,091,103	利益剰余金	7,686,498
その他	679,144	株式等評価差額金	576,548
(無形固定資産)	(75,484)	〈資本合計〉	〈10,842,860〉
(投資その他の資産)	(2,203,670)		
投資有価証券	1,756,021		
その他	462,902		
貸倒引当金	△ 15,253		
資産合計	19,291,431	負債、少数株主持分及び資本合計	19,291,431

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書 (平成16年4月1日～平成17年3月31日)

単位：千円

売上高	26,676,174
売上原価	21,803,515
販売費及び一般管理費	4,169,593
営業利益	703,064
営業外収益	77,871
営業外費用	38,078
経常利益	742,857
特別利益	12,662
特別損失	39,853
税金等調整前当期純利益	715,666
法人税、住民税及び事業税	315,260
法人税等調整額	△ 26,085
少数株主利益	101,538
当期純利益	324,953

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主な事業内容
日本機械商事株式会社 (本社：東京都)	150,000 ^{千円}	100.00%	包装機械の販売
静岡自動車株式会社	16,000	100.00	駐車場業・レンタカー業
静岡スバル自動車株式会社	961,000	50.35	自動車の販売修理
静岡プイオート株式会社	80,000	50.35	輸入自動車の販売修理

(注) 静岡プイオート株式会社は、静岡スバル自動車株式会社の100%子会社であります。

トピックス

清水工場と三島工場の包装機械を インターパック2005に出展

インターパックはドイツにて3年ごとに開催される世界最大級の国際包装機械・資材・製菓機械展で、当社は今回で7回目の出展になります。

- **開催場所** メッセ・デュッセルドルフ (ドイツ)
- **開催期間** 平成17年4月21日(木)～27日(水)
- **来場者数** 176,000人 (106ヶ国)
- **出展社数** 2,600社 (56ヶ国)
- **当社出展機**

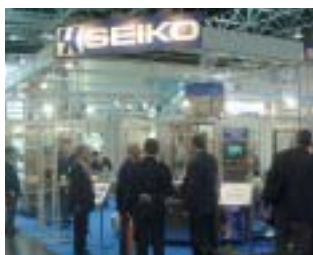
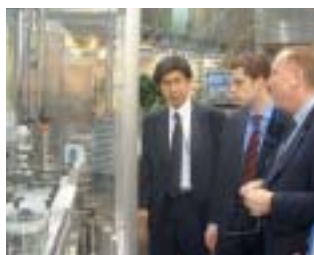
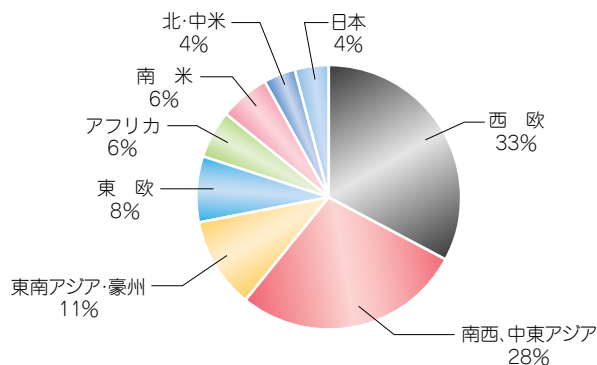


充填巻締機
(清水工場製)



小容量重量式充填・キャッパー
(三島工場製)

● 当社ブースへの地域別来場者内訳



会社の概況 (平成17年3月31日現在)

● 社 名 静 甲 株 式 会 社 (SEIKO CORPORATION)

● 設 立 昭和14年5月18日

● 資 本 金 13億3,700万円

● 従 業 員 数 282名

● 事 業 内 容

生産部門

● 清 水 工 場

充填巻締機などの包装機械及びロボット応用システムなどの産業機械の製造販売並びにあき缶自動選別回収機、紙カップ回収機などの環境機器の製造

● 富 士 川 工 場

冷間鍛造製品の製造販売

● 三 島 工 場

液体自動充填機などの自動包装プラントの製造販売

商事部門

● 本 社 別 館・愛 染 事 業 所・浜 松 営 業 所・静 岡 営 業 所

- F A 機 器、空 調 設 備、モ ー タ ー、非 常 用 電 源 設 備、エ レ ー バ ー タ ー な ど の 総 合 電 機 設 備 機 器 の 販 売 及 び 電 機・空 調 設 備 工 事
- ス イ ー パ ー、ホ イ ール ロ ー ダ ー、ク レ ーン な ど の 省 力 機 械 の 販 売
- 自 動 車・産 業 用 車 両 の タ イ ヤ 販 売
- 環 境 機 器 の 販 売

● 株 式 の 状 況

会社が発行する株式の総数 19,200,000株

発行済株式の総数 5,250,000株

株 主 の 総 数 346名

大株主(上位7名)

株 主 名	持 株 数	議 決 権 比 率
鈴 与 株 式 会 社	1,264,000株	24.08%
鈴 木 辰 衛	800,000	15.24
有限会社テイエムケイ	340,000	6.48
株 式 会 社 静 岡 銀 行	260,000	4.95
株 式 会 社 清 水 銀 行	250,000	4.76
清 水 食 品 株 式 会 社	204,000	3.89
静 甲 従 業 員 持 株 会	155,000	2.95

● 事業所一覧

本 社	〒424-0809	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号 TEL (0543) 66-1030
本 社 別 館	〒424-0042	静岡県静岡市清水区高橋南町6番8号 TEL (0543) 66-1231
清 水 工 場	〒424-0809	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号 TEL (0543) 66-0111
富士川工場	〒421-3301	静岡県庵原郡富士川町北松野873番地の6 TEL (0545) 85-1122
三島工場	〒411-0822	静岡県三島市松本270番地 TEL (055) 977-1515
愛染事業所	〒424-0805	静岡県静岡市清水区愛染町21番地の1 TEL (0543) 66-9269
浜松営業所	〒435-0054	静岡県浜松市早出町1240番地の4 TEL (053) 465-2262
静岡営業所	〒420-0837	静岡県静岡市葵区日出町8番地の5 静岡自動車(株)(SMCパーキングビル)内 TEL (054) 252-3237

- (注) ・静岡市は平成17年4月1日より政令指定都市に移行いたしましたので新住居表示にて記載しております。
・浜松営業所は平成17年5月に移転いたしましたので新住所を記載しております。

● 役 員 (平成17年6月29日現在)

代表取締役 取締役社長	鈴木 恵 子
取 締 役	小 野 田 敦 (管理部門担当)
取 締 役	八 木 義 矩 (商事部門担当)
取 締 役	分 部 清 史 (生産部門担当)
取 締 役	古 達 幹 夫 (静岡スバル自動車株式会社 代表取締役) 取締役社長
取 締 役	掛 下 昌 信 (日本機械商事株式会社 代表取締役会長) (本社：大阪府)
常勤監査役	塩 谷 達 雄
常勤監査役	福 島 茂 彦
監 査 役	大 嶋 秀 龍
監 査 役	梅 田 健 司

株式事務のご案内

決 算 期	3月31日
定時株主総会	6月
基 準 日	毎年3月31日
配当金支払 株主確定日	毎年3月31日及び中間配当を行う場合は9月30日
公 告 掲 載 紙	日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス	http://www.across.or.jp/seiko-co
1単元の株式数	1,000株
名義書換代理人	中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 所	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行事務センター 電話(03) 3323-7111
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

〔株式の名義書換、配当金のお支払及び諸届等のお問い合わせは、上記名義書換代理人の事務取扱所並びに同取次所でお取り扱いいたします。なお、証券保管振替機構に預託されました株券についての諸届及び手続等に関するお問い合わせは、お取引先の証券会社へお願いします。〕

